

部 長	岩 瀬 将 之
研究主任	本 多 裕 輔
部 員 数	4 6 名

1 研究主題

『主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童・生徒の育成』
～求められる英語指導のために～

2 はじめに

数年来、小・中学校の円滑な接続を目指し、授業での言語活動の内容、指導方法等について検討してきた。一昨年度の小学校の新学習指導要領実施、昨年度は中学校でも新学習指導要領が実施されたことにより、小学校での英語の教科化や中学校での学習内容の増加に向けて、部員の授業力向上や小中学校のさらなる連携が求められるようになった。

小牧市英語教育研究会では、英語を使ったコミュニケーションができる人材の育成を目指している。コミュニケーションの媒体としての英語を、生徒同士のかかわりを大切にしながら学ばせることができることを特に主眼において研究を行ってきた。今年度、上記研究主題に関連し、新学習指導要領による授業が始まった小学校・中学校のそれぞれの課題をもって、授業実践についての情報交換や小中学校の連携を主な活動として研究に取り組みたいと考える。

3 研究経過

研究主題に沿って、各部員の勤務校において各校の現状を踏まえた実践・研究を進めた。また、小牧小学校にて行われた研究会の時には、部員が目的ごとに班を編成し、話し合い活動を行った。

- | | | |
|---------|------------|--------------------|
| (1) 第1回 | 令和4年4月26日 | 研究テーマ発表、研究主任・副主任選出 |
| (2) 第2回 | 令和4年5月10日 | 学年ごとの情報・意見交換① |
| (3) 第3回 | 令和4年6月14日 | 学年ごとの情報・意見交換② |
| (4) 第4回 | 令和4年7月5日 | 小中連携について① |
| (5) 第5回 | 令和4年9月13日 | 実践発表① |
| (6) 第6回 | 令和4年10月11日 | 実践発表② |
| (7) 第7回 | 令和4年11月8日 | 実践発表③ |
| (8) 第8回 | 令和5年1月10日 | 実践発表④・小中連携について② |
| (9) 第9回 | 令和5年2月14日 | 令和4年度のまとめ |

4 研究の概要

(1) 情報・意見交換

部員を小学校班と中学校班に分け、中学校班はさらに所属学年別に分かれ、情報・意見交換を2度行った。

情報・意見交換では、普段の授業における言語活動の持ち方、A L Tとのチーム・ティーチングの在り方、教材のとらえ方、定期考査や評価の在り方などについて、各校の情報を交換するとともに、よりよい方法のための意見交換をした。小学校班においては、主にタブレットをはじめとしたI C T機器の活用の方法や英語を専門としない教員のための英語の授業の基本的な進め方などについて話し合った。中学校班においては、昨年度より始まった新学習指導要領に基づく授業についての課題を出し合い、授業の中での書く力の育成や、コロナ禍の中におけるペア・グループ活動の在り方などについて話し合った。

(2) 授業実践発表会

研究部員が所属する各校の、英語の授業の実践発表を行った。

小学校では、「伝えたい」という課題設定の在り方、パフォーマンステストでの発表の指導方法、中学校進学後にむけて英単語や英文を書く指導の方法などの実践発表があった。

中学校では、生徒用デジタル教科書を使ったリーディング指導の方法、情報を整理して自分の意見や考えを加えた記事を書く指導の方法、英文についての要約を学び合いの要領で考えさせる授業実践、リスニングにおいて未知の語を推測しながら内容を聞き取る授業実践など、難化する課題に対してさまざまな切り口からの実践が発表された。

(3) 小中連携について

部員を小中学校混合の班に分け、それぞれの特徴をいかした授業の在り方について情報交換を行い、それぞれの要望を出し合ったり、課題点を確認したりした。小学校では「聞く・話す」が中心であるが、中学校では「聞く・話す・読む・書く」の技能に細分化され、授業で扱うべき項目が多くなることや、小中学校をあわせた語彙指導の難しさなど、さまざまな課題がみられる。

5 今後の課題

本研究では、それぞれの部員が求められる英語の力をつけるための様々な指導の在り方を模索してきた。中学校で新学習指導要領が実施されて2年目になるが、生徒同士でかかわりを大切にした優れた授業実践が多く行われたことがひとつの成果である。

反面で、小中連携や語彙指導、変化の激しい入試制度への対応など、大きな課題もいくつかみられる。